

令和6年度 第3回「アレコレ住まいのかたり場」 座談会を開催しました！

【日 時】 令和6年11月6日(水)
10:40~12:10

【場 所】 倉永下中村公民館

【参加者】 倉永下中村公民館のみなさん
8名

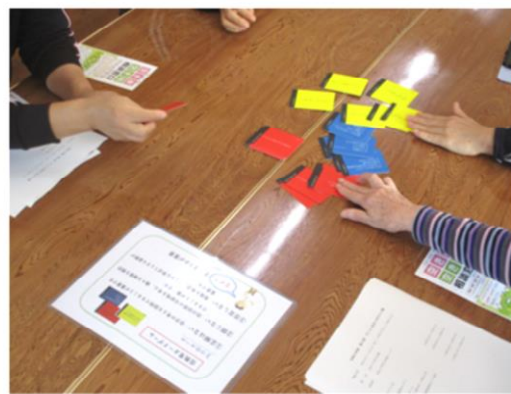
【講 師】 一般社団法人 全国古民家再生協会
井上静夫氏
一般社団法人 住教育推進機構
山城京子氏



【内 容】 ・講師2名による進行でカードゲームをしながら、4名2班になって「家」に関するアレコレについて語り合いました♪
・ありあけ不動産ネット協同組合の川添理事長からは「空き家・空き地相談窓口」の紹介もしていただきました！

【カードゲームのルール】

- ・配られた赤、青、黄のカードの中から質問を選択します。
(答えたくないカードは選ばなくてよい)
- ・その質問に対し、自分の考えを言います。
(選択肢がある場合はその中から選ぶ)
- ・話を広げましょう。
(アドバイスなども聞く)
- ・否定はしません。
(他人の意見を聞く)



質問. 空き家は増えてきていますか？

- (意見) ・自分の家もいずれ空き家になるとあって、この会に参加しました。
・子どもは市外に出て家を建てている。
・大牟田にもっと仕事があれば「帰ってきて」と言えるけど・・・。
・今までは代々継いできたから、空き家はこんなになかった。
・役所に話を聞いてからどうするか自分で考えたい。

(講師より)

- ・大牟田市には、担当部署の建築住宅課やありあけ不動産ネット協同組合の窓口もありますね。
- ・少しずつ法律が変わってきていますが、家とは本来誰かの資産なので役所も簡単に手が出せません。
- ・家の所有者名義の確認は、今からでも出来ることの一つです。

(質問) 夫が亡くなったら、私の名義にしないといけませんか？

(回答) 妻か子か、分割協議をして書面を残すといいですね。特に今年から、3年以内の相続登記が義務化されています。司法書士さんが相談にのってくれますよ。

質問. 高齢のご夫婦が亡くなられたら、その後どうなる…？

(意見)

- ・施設に入ること、空き家の発生になる。
- ・核家族化とかで子どもたちは帰ってこない。
- ・この辺は年寄りばかり残っているし、皆が悩んでいるはず。
- ・子どもや孫には、後始末で負担をかけさせたくない。
- ・植えてた木や竹がどんどん大きくなってしまっていて今大変！
- ・昔は同居で、手入れするのは当たり前だったけど今は忙しいし離れている。自分たちは面倒みる気持ちで嫁いできたけど、今の人たちの考え方は違うのかな。
- ・実家のことを話すと子ども達は聞いてはくれるけど、聞くだけで返事はあまりない。ピンとこないとか、考えたくないとかで即答できないのかも。

(講師より)

- ・窓口には、子ども世代からの相談が非常に多い。真剣に考え始めるのはどうしても、親に何かあって急に困ってから。もう少し早い段階なら解決策もあったのに…という例が多いです。
- ・遺言書だけでは引き継げない想いもあるので、エンディングノートはとても役立ちますし、ぜひ、親側から話を切り出してあげてみてください。

(意見)

- ・実は、主人がもう何年か前にエンディングノートを書いていた。
- ・自分には子どもがいないので後見人をお願いしている。
- ・実は、実家の家や田畑の処分を不動産業者と相談中。親が遺言書を残してしてくれたから、スムーズに進められた。



他にも【住んでいる地域のどこが好き？】【住まいの近くにあってほしい施設は？】などの質問カードも出てきて話題が広がり、積極的に講師への質問も飛び交う会となりました。

遺言を受けて手続きを進めていたり、エンディングノートを書いていた、「後のコト」を考えずで行動している方のお話も聞くことができました！

倉永下中村公民館のみなさん、ご参加ありがとうございました♪

「大牟田の家のこと心配なんだけど、どう思う？」と親から子へ切り出してみると、中には大きくなった孫が帰ってくるつもりだとわかる例もあったそうですよ♪ 子ども側には「自分が長男だから」「私が介護を担ったから」など様々な想いを持っていたり。

家族に負担をかけたくない。もめたりしたら嫌だから。…という皆さんの優しいお声に、講師からも「元気な時だからこそ、前向きに話すことができますよ」とアドバイスが。

お正月など家族が集まるタイミングで、ちょっと実家のコトを語り合ってみませんか？^^